

# 中学生のレジリエンスとキャリアイメージとの関係

山田 智之\*

(平成28年2月25日受付；平成28年5月12日受理)

## 要 旨

本研究は、中学3年生のレジリエンスがキャリアイメージに与える影響について検討したものである。キャリアイメージの測定には、キャリアという言葉からイメージしたものを描いたイメージ画を用いた。先行研究をもとにイメージ画を分類し、本研究においては7つのタイプ（山登り、拡張、道程、選択、浮遊、循環、積み重ね）が見いだされた。そして、分類されたイメージ画とレジリエンスとの関係を検討した。その結果、中学校3年生においては、ねばり強く問題を解決しようとするレジリエンスである意欲的活動性が、ゴールに向かって進んでいくイメージである「道程」、こつこつと積み重ね、力を蓄えるイメージである「積み重ね」といったイメージに影響をあたえることが明らかになった。このことから、中学3年生のレジリエンスとキャリアイメージには一定の関連性があることが明らかになった。

## KEY WORDS

Career image キャリアイメージ, Resilience レジリエンス

## 1 問題と目的

文部科学省（2011）は、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、生涯にわたる円滑なキャリア発達を支援するために、幼稚園から大学段階におけるキャリア教育の必要性を示している。その中でも中学校段階のキャリア教育は、小学校段階の基盤形成期と高等学校段階の現実的選択・試行、社会的移行準備期の橋渡しをする重要な段階にある。特に中学校3年生段階は高校進学という、大きな自己決定を行う節目の段階と考えられる。

文部科学省（2015）の学校基本調査によれば、平成27年度の中学校卒業後の進学者の割合（通信制含）は98.5%と過去最高を示し、ほとんどの中学生が高等学校に進学をしている。しかしながら、三浦・上里（1999）は中学生が高等学校入試時期にストレスフルな状態にあることを明らかにしている。近年、ストレスフルな出来事を克服する資源としてレジリエンス（resilience）が注目されている。レジリエンスとは、困難な環境にもかかわらず、適応する過程・能力・結果と定義される（Masten & Garmezy, 1990）。このことについて、石毛・無藤（2005）は、ストレスの高い高校受験期の中学3年生のレジリエンスのうち「意欲的活動性」と「楽観性」が、受験前のストレス反応の抑制および受験後の成長感の向上に寄与することを明らかにしている。

ところで、中学校においてキャリア教育を推進する上で、キャリアというものを捉えておくことは非常に重要なことである。今日、日本で進められているキャリア教育の指針となった「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（文部科学省2004）では、キャリアを「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係づけや価値づけの累積」と定義している。また、厚生労働省（2002）は「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書」において、キャリアを「一般に『経歴』、『経歴』、『発展』さらには、『関連した職務の連鎖』等と表現される時間的持続性ないし継続性を持った概念」と定義している。歴史的には、Hall（1976）が、キャリアを「個人の人生全般にわたる、仕事に関連した諸経験および活動についての一連の態度・行動の知覚」と定義し、Super（1980）は「生涯における、個人の諸役割の組み合わせと連鎖」と定義している。そして、Vondracek, Lerner, & Schulenberg（1986）は人のキャリアに関する行動を「時間的経過の中での発達とともに社会的・文化的文脈からの影響を受けながら変化していくものである」と定義している。このように、キャリアについて定まった定義はない。

中学校において職場体験をはじめとするキャリア教育が様々な形で取り込まれるようになった今日、高等学校への進学を前にした中学3年生は、キャリアというものをどのようにイメージしているのだろうか。先行研究では自己

の未来に対するイメージや社会人に対するイメージに関する研究が多く見られるが、キャリアという概念に関するイメージの研究は希少である。山田（2010, 2012）は、中学生にキャリアという言葉から考えたり・思い浮かべたりしたことをイメージ画として描かせ、その前後で進路成熟の変容を測定する研究を行っている。そして、「キャリアのイメージ画制作」という美術課題は、中学生の進路成熟の変容を促進させることを明らかにし、絵画の制作を通じて、自らのキャリアをじっくりと見つめる時間の重要性を指摘している。山田（2010, 2012）の研究の中に示された中学生が描いた「キャリアのイメージ画」をみると、「積み重ね」「描く」「登る」などのように、様々なタイプがある。しかしながら、当該研究ではこれらの「キャリアのイメージ画」のタイプに関する考察は行われていない。このような絵画のタイプについて、やまだ（2012）は、人生のイメージ地図研究から8つの描画のタイプ（山登り、拡張、道程、出来事、選択、浮遊、循環、居る）があることを明らかにし基本ストーリーとして示している。

そこで、本研究では中学3年生が考えるキャリアに関するイメージについて調査をする。そして、中学3年生のレジリエンスとキャリアイメージとの関連について検討をする。

## 2 方法

首都圏の公立中学校に在籍する251名の中学3年生を対象に、2011年12月に質問紙調査法による集合調査を行った。そして、回答のあった154名（男子生徒：62名，女子生徒：92名）を分析対象とした（有効回答率61.4%）。質問紙には、レジリエンス尺度（石毛・無藤，2006）を測定尺度として用いた。当該の尺度は、粘り強く問題を解決しようとする「意欲的活動性（10項目）」、ネガティブな心理状態を立て直すために他者との内面の共有を求める「内面共有性（6項目）」、物事をポジティブに捉える「楽観性（3項目）」の3つの下位尺度によって構成される5件法（「非常によくあてはまる（5点）」～「全くあてはまらない（1点）」）による尺度である（各質問項目については、注参照）。また、キャリアイメージについては、2011年の9～11月の美術授業においてキャリアという言葉からイメージしたものを自由に描かせ、この課題で作成された絵画作品を測度として用いた（図1）。

## 3 分析と結果

### 3.1 レジリエンス尺度

レジリエンス尺度（石毛・無藤，2006）は、意欲的活動性、内面共有性、楽観性の3つの下位尺度からなる尺度であることから、最尤法プロマックス回転による確認的因子分析を固有値 $\geq 1.0$ を基準として行った。その結果、レジリエンス尺度（石毛・無藤，2006）と同じ3つの因子が抽出され、再現性が確認された。また、各因子の $\alpha$ 係数から（意欲的活動性： $\alpha = .913$ ，内面共有性： $\alpha = .916$ ，楽観性： $\alpha = .833$ ）（表1），信頼性は高い尺度と判断できる。また、各因子を潜在変数とした仮説的モデルを作成して共分散構造分析をした結果、概ね十分な適合度（ $NFI = .901$ ， $CFI = .943$ ， $RMSEA = .083$ ）を示しており、因子的に妥当な尺度と判断できる。このことから本研究では、レジリエンス尺度の各下位尺度の合計点を尺度得点とすることにした。また、当該尺度における最小値、最大値、平均値、標準偏差は表1に示す通りであり、天井効果、床効果などは見られなかった。

### 3.2 キャリアイメージ

キャリアという言葉からイメージした絵画について、やまだ（2012）が示した人生イメージ地図8つの基本ストーリー（山登り、拡張、道程、出来事、選択、浮遊、循環、居る）を参考に分類にあたった。やまだ（2012）によれば、「山登り」とは、人生を山に喩え、頂上に登って降りる過程などを表した描画のこと。「拡張」とは、拡大したり、成長したりする様を描いた描画のこと。「道程」とは、ゴールに向かって進んでいく道を表した描画のこと。「出来事」とは、ライフ・イベントなどを表した描画のこと。「選択」とは、分岐点やターニングポイントなどを表した描画のこと。「浮遊」とは、風任せ、運任せといった様を表した描画のこと。「循環」とは、自然界の物質循環、繰り返しなどを表した描画のこと。「居る」とは、場所（トポス）に居る、居続ける、とどまる、存在などを表した描画のことである。

分類の結果、やまだ（2012）の8つの基本ストーリー（山登り、拡張、道程、出来事、選択、浮遊、循環、居る）のうち、「出来事」「循環」を抜いた6つの絵画が見いだされた。また、新たに未来に備えてこつこつと積み上げ、力を蓄える様を表した絵画が見いだされ、これを「積み重ね」と命名した（図1）。そして、本研究では、見いだされた「山登り、拡張、道程、選択、浮遊、循環、積み重ね」の7つのタイプを中学3年生のキャリアイメージとした。



図1 中学生が描いたキャリアイメージ

表1 記述統計量 (レジリエンス)

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	$\alpha$
意欲的活動性 Positive activity	164	10	50	35.518	7.137	.913
内面共有性 self-disclosure	164	6	30	21.567	5.484	.916
楽観性 Optimism	164	3	15	10.128	2.902	.833

3. 3 キャリアイメージの性別による相違

中学3年生のキャリアイメージについて、性別による相違を検討したところ、キャリアイメージの相違は認められなかった ( $\chi^2=12.121, df=6, n.s.$ ) (表2)。

3. 4 レジリエンスの性別による相違

中学3年生の性別によるレジリエンスを検討するために、下位尺度ごとに対応のないt検定を行った。

その結果、意欲的活動性 ( $t(152)=.359, n.s.$ ) と内面共有性 ( $t(152)=1.490, n.s.$ ) において有意でなく、楽観性 ( $t(152)=2.025, p<.05$ ) において、女子中学生の方が高い傾向が認められた (図2)。



表2 キャリアイメージの性別による相違

	男子中学生		女子中学生		合計		$\chi^2$
	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	
山登り Climbing story	14	(11.29)	14	(7.61)	28	(18.90)	12.121 <i>n.s.</i>
拡張 Expansion story	4	(3.23)	9	(4.89)	13	(8.12)	
道程 Road story	14	(11.29)	8	(4.35)	22	(15.64)	
選択 Choice story	8	(6.45)	7	(3.80)	15	(10.26)	
浮遊 Flow story	6	(4.84)	18	(9.78)	24	(14.62)	
居る Being story	6	(4.84)	16	(8.70)	22	(13.53)	
積み重ね Accumulation story	10	(8.06)	20	(10.87)	30	(18.93)	
合計	62	(50.00)	92	(50.00)	154	(100.00)	

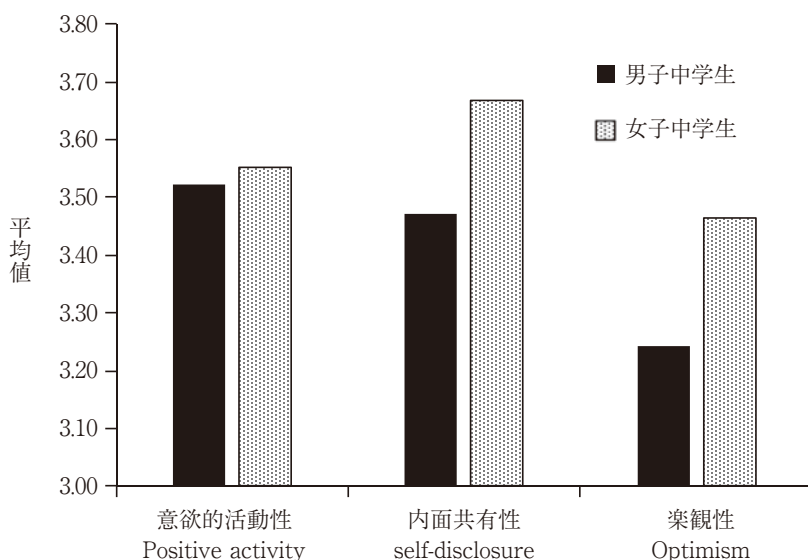


図2 レジリエンスの性別による相違

### 3. 5 レジリエンスがキャリアイメージにあたる影響

次に、レジリエンスがキャリアイメージにあたる影響を探索的に検討するために、レジリエンスの各下位尺度を独立変数、7つの分類された絵画を従属変数とする多項ロジスティック回帰分析を行った。

その結果は、意欲的活動性 ( $-2LL=541.351$ ,  $\chi^2=26.460$ ,  $df=6$ ,  $p<.001$ ) において、十分な適合度を示していた。このうち、道程 ( $B=.249$ ,  $O.R.=1.282$ ,  $95\%CI:1.067\sim 1.541$ ,  $p<.01$ )、積み重ね ( $B=.250$ ,  $O.R.=1.283$ ,  $95\%CI:1.073\sim 1.536$ ,  $p<.01$ ) においてオッズ比が有意であり、正の影響を与えていることが明らかになった(表3)。また、内面共有性 ( $-2LL=525.115$ ,  $\chi^2=10.225$ ,  $df=6$ ,  $n.s.$ )、楽観性 ( $-2LL=519.139$ ,  $\chi^2=4.249$ ,  $df=6$ ,  $n.s.$ ) においては、十分な適合度を示してなかった(表3)。

## 4 考察

### 4. 1 中学生のイメージ画

絵画表現には、事物の再現的な表現や非視覚的な概念を表現した抽象画や超現実主義的なものなどがある。「キャリア」というものは、後述の形のない非視覚的な概念であり、これを視覚的に表すためには、高度な思考や豊かな感性が必要なものと考えられる。

人生のイメージ地図(やまだ, 2012)において、大学生は「人生」という形のない概念を描画で表現していた。本研究の結果、中学生であっても、キャリアのような形のない非視覚的な概念をイメージし絵画として表現できることが明らかになった。また、中学生が描いたキャリアに関するイメージ画には、7つのタイプ(山登り, 拡張, 道程,

表3 レジリエンスへのキャリアイメージの影響

モデル適合		意欲的活動性 Positive activity		
		-2LL	df	$\chi^2$
		541.351	6	26.460 ***
independent variable	dependent variable	B	O.R.	95%CI
山登り Climbing story	山登り Climbing story	.060	1.062	.889 ~ 1.268 n.s.
拡張 Expansion story	拡張 Expansion story	--	--	-- ~ -- --
道程 Road story	道程 Road story	.249	1.282	1.067 ~ 1.541 **
選択 Choice story	選択 Choice story	.108	1.114	.918 ~ 1.352 n.s.
浮遊 Flow story	浮遊 Flow story	.015	1.015	.847 ~ 1.216 n.s.
居る Being story	居る Being story	.019	1.019	.850 ~ 1.223 n.s.
積み重ね Accumulation story	積み重ね Accumulation story	.250	1.283	1.073 ~ 1.536 **

モデル適合		内面共有性 self-disclosure		
		-2LL	df	$\chi^2$
		525.115	6	10.225 n.s.
independent variable	dependent variable	B	O.R.	95%CI
山登り Climbing story	山登り Climbing story	-.129	.879	.708 ~ 1.091 n.s.
拡張 Expansion story	拡張 Expansion story	--	--	-- ~ -- --
道程 Road story	道程 Road story	-.267	.766	.617 ~ .951 *
選択 Choice story	選択 Choice story	-.200	.819	.647 ~ 1.036 n.s.
浮遊 Flow story	浮遊 Flow story	-.090	.914	.733 ~ 1.140 n.s.
居る Being story	居る Being story	-.126	.882	.705 ~ 1.103 n.s.
積み重ね Accumulation story	積み重ね Accumulation story	-.242	.785	.635 ~ .970 *

モデル適合		楽観性 Optimism		
		-2LL	df	$\chi^2$
		519.139	6	4.249 n.s.
independent variable	dependent variable	B	O.R.	95%CI
山登り Climbing story	山登り Climbing story	.016	1.016	.759 ~ 1.360 n.s.
拡張 Expansion story	拡張 Expansion story	--	--	-- ~ -- --
道程 Road story	道程 Road story	-.179	.836	.619 ~ 1.130 n.s.
選択 Choice story	選択 Choice story	.025	1.026	.735 ~ 1.431 n.s.
浮遊 Flow story	浮遊 Flow story	-.007	.993	.738 ~ 1.336 n.s.
居る Being story	居る Being story	-.058	.944	.698 ~ 1.276 n.s.
積み重ね Accumulation story	積み重ね Accumulation story	-.136	.873	.653 ~ 1.166 n.s.

Notes 1. \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

Notes 2. -2LL : -2対数尤度 Log likelihood, B : 回帰係数 Regression coefficient, O.R. : オッズ比 Odds ratio, 95%CI : 95%信頼区間 95%Confidence interval

選択, 浮遊, 居る, 積み重ね)があることが明らかになり, 描かれた内容から中学生はキャリアを人生全体として捉えながらイメージを広げていると考えられる。

しかしながら, 本研究では, 人生のイメージ地図(やまだ, 2012)にみられた「出来事」「循環」というイメージが見いだされなかった。このことについては, 「出来事」というイメージが, ライフ・イベントを表したものであり, 「循環」というイメージが, 木の実がなり地面に落ちて養分になるといった輪廻転生的な過程のイメージであることなどから, ある程度の人生経験がないと自分と結びつけてイメージができないものと考えられる。このことから, 人生経験が少ない中学生という発達段階では「出来事」「循環」というイメージが形成されなかったと考えられ

る。また、本研究において「積み重ね」というイメージが見いだされたことから、発達段階によって、キャリアイメージは変化するものと考えられる。今後は、この点を明らかにするために、様々な年齢段階のキャリアイメージの研究をすすめる必要がある。

#### 4. 2 キャリアイメージの性別による相違

中学3年生が描いた7つのタイプ（山登り、拡張、道程、選択、浮遊、居る、積み重ね）のキャリアイメージにおいて、男子中学生と女子中学生の間に相違は見いだされなかった。このことから、思春期という発達段階にある中学生は、身体的にも精神的にも性差が顕著になる時期であるが、キャリアという概念のイメージにおいて男女の相違はなく、自らの将来を捉えているものと考えられる。このような結果になった理由としては、男女が共に学ぶ公立中学校といった環境や人生経験が少ない中学生という発達段階が影響を与えていると考えられる。

#### 4. 3 レジリエンスの性別による相違

レジリエンスの「楽観性」において、男子中学生よりも女子中学生の得点の方が有意に高かった。「楽観性」が、受験前のストレス反応の抑制および受験後の成長感の向上に寄与する（石毛・無藤，2005）ものであることから考えると、男子中学生よりも女子中学生の方が、受験に対して強く、ポジティブに捉えている側面があると考えられる。

このことについては、本調査を行った中学校が首都圏の公立中学校であることから考えると、公立を第一志望とする中学生が70～80%となっており、第二志望の私立の併願校を考える場合、男子中学生よりも女子中学生の選択肢が多い環境にあることなどが影響を与えていると推測される。しかし、本研究では、これらの影響について十分な調査を行っていなかったため、明らかにすることはできなかった。

今後は、首都圏以外の中学3年生にも調査を進め、「楽観性」の性差について明らかにする必要がある。

#### 4. 4 レジリエンスがキャリアイメージにあたる影響

本研究の結果、中学3年生においては、ねばり強く問題を解決しようとするレジリエンスである意欲的活動性が、ゴールに向かって進んでいくイメージである「道程」、こつこつと積み重ね、力を蓄えるイメージである「積み重ね」といったイメージに影響をあたることが明らかになった。このことから、レジリエンスとキャリアイメージには一定の関連性があると考えられる。

今後は、キャリアイメージと、レジリエンス以外のキャリア発達に関連する能力との関連性についても明らかにする必要があると考える。

#### 4. 5 成果と課題

中学生がキャリアをどのようにイメージしているのかを捉えることは、キャリア教育を展開する上で大きな手がかりとなる。このようなイメージを捉える手法として、イメージ画は有効なものと考えられる。

また、中学生という発達段階において、レジリエンスのキャリアイメージへの影響を明らかにできたことは、キャリア教育を展開する上で一定の手がかりを得ることができたと考えられる。

しかしながら、キャリアイメージに影響を与える要因については、様々な個人のパーソナリティ要因や個人に対する外的要因など、様々なものが考えられることから、今後さらに研究を深める必要がある。

## 注

レジリエンス尺度（石毛・無藤，2006）

意欲的活動性

- ・難しいことでも解決するために、色々な方法を考える
- ・失敗してもあきらめずにもう一度挑戦する
- ・決めたら必ず実行する
- ・つらい経験からも、学ぶことがあると思う
- ・やり始めたことは最後までやる
- ・何かを考えるとき、さまざまな角度から考える
- ・困ったとき、自分ができるところをまずやる
- ・困ったとき、ふさぎ込まないで次の手を考える。
- ・失敗したとき、自分のどこが悪かったか考える。
- ・困ったことが起きても、必ず解決の方法があると思う

## 内面共有性

- ・つらいときや悩んでいるときは自分の気持ちを人に聞いてもらいたいと思う
- ・寂しいときや悲しいときは自分の気持ちを人に聞いてもらいたいと思う
- ・うれしくてたまらないときは自分の気持ちを人に話したいと思う
- ・自分の考えを人にも聞いてもらいたいと思う
- ・迷っているときは人の意見も聞きたいと思う
- ・ひとからの助言は役立つと思う

## 楽観性

- ・なにごととも良い方に考える
- ・困ったことが起きても、良い方向にもっていく
- ・困ったとき、考えるだけ考えたらもう悩まない

## 引用文献

- Hall, D.T. (1976). *Career in Organizations*, Goodyear Publishing Co, Inc.
- 石毛みどり・無藤隆 (2005). 中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャルサポートとの関連—受験期の学業場面に着目して— *教育心理学研究*, **53**, 356-367.
- 石毛みどり・無藤隆 (2006). 中学生のレジリエンスとパーソナリティとの関連 *パーソナリティ研究* **14**(3), 266-280.
- 厚生労働省 (2002). 「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会」報告書について  
<<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/07/h0731-3.html>>2015年12月19日
- Masten, A.S., Best, K. & Garmezy, N. (1990). Resilience and development: Contributions from the study of children who overcome adversity. *Development and Psychopathology*, **2**, 425-444.
- 三浦正江・上里一郎 (1999). 中学生の学業における心理的ストレス～高校受験期に実施した調査研究から～ *ヒューマンサイエンスリサーチ*, **8**, 87-102.
- 文部科学省 (2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために」
- 文部科学省 (2011). 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」文部科学省
- 文部科学省 (2015). 学校基本調査—平成27年度 (速報) 結果の概要—  
<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k\\_detail/1360721.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1360721.htm)>2016年1月8日
- Super, D. (1980). A life-span, life-space approach to career development. *Journal of Vocational Behavior*, **16**, 282-296.
- Vondracek, F.W., Lerner, R.M., & Schulenberg, J.E. (1986). *Career development: A life-span development approach*. Englewood Cliffs, NJ: Lawrence Erlbaum, pp.67-83.
- 山田智之 (2010). 中学校美術科の授業における「キャリアのイメージ画制作」が生徒の進路成熟の変容に与える効果, *キャリアデザイン研究*, **6**, 35-48.
- 山田智之 (2012). 空想画課題「キャリアイメージ」がキャリア発達に与える効果, 第29回東京都中学校美術教育研究大会研究紀要, 19-20.
- やまだようこ (2012). 京都大学退職教員最終講義「人生心理学：イメージ画と語り」2012年2月18日  
<[https://www.youtube.com/watch?v=dN\\_pKg\\_nJNQ](https://www.youtube.com/watch?v=dN_pKg_nJNQ)>2016年1月8日

# Effects of junior high school students' resilience on their career image

Tomoyuki YAMADA \*

## ABSTRACT

This study investigates correlations between third-year junior high school students' resilience and their career image. Participants were required to draw pictures expressing the word "career," and these pictures were used to measure their career image. The pictures were classified into the following seven types: Climbing story, Expansion story, Road story, Choice story, Flow story, Being story, and Accumulation story. Multiple logistic regression analysis was conducted, with resilience as the independent variable and the pictures as dependent variables. The results indicated that positive activity, which is a subscale of resilience, had a positive effect on the Road story, which expresses the image of advancing toward a goal, and the Accumulation story, which expresses the image of accumulating effort and power. These results suggest that resilience is related to career image to a certain extent.